

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2024. 2. 2
No.50 文責 伊藤

子ども達に何をしてあげるべきか

家に帰ると毎日スマホゲームと SNS の投稿を見て、お気に入りのテレビ番組が始まるまでの時間を過ごしています。朝もトイレで X (旧 Twitter) を見ながら、日本各地の先生方はどんなことを考えてどんな取り組みをしているのか情報収集をしているのですが、最近見た中で気になった投稿が表記の件です。先生方は、どのように考えますか？

私たちは地方公務員として、住民が暮らしやすい生活環境を作っていく（とりわけ教育に関して）のが仕事です。つまり、我々の顧客である子ども達（時には、保護者の方）が、「暮らしやすくなる」ように、「生きていく力がつく」ように支えていくことが求められているのだと思います。

そう考えると、私たちは子ども達に何をしてあげるのが良いのでしょうか。大学を卒業して10か月が経過した実先生は、今どんな答えをもっているのでしょうか。3年の経験がある菅野先生はいかがでしょうか。先輩方の意見はいかがでしょうか。

投稿主の考えは、私の想像の逆をいくものでしたが、納得のいくものでした。それは、

「『何をしなくてもいいか』を考える」

というものでした。文章をさらに読んでみると、

「私たち（教員や大人）は、子どものためを思ってつい色々なことをしてあげてしまっている。しかし、その中で子ども達ができることまでやってしまい、成長のチャンスを奪っていることがある。」と書いてありました。確かに、目の前にいる子ども達はまだまだ不完全だし、低学年となればまだまだ手がかりです。でも、小学1年生は、10か月前まではそれぞれの園でリーダーとして下級生のお手本となり、自分の力でたくさんのことをやってきた子どもでもあります。つまり、私たちが考えているよりも彼らにはできることがたくさんあるし、課題を乗り越える力も十分に備わっているのです。

これからの時代、私たち教員のためにも子ども達のためにも、「絶対にやらなければいけないことは何なのか」「子ども達に任せてもいいことは何なのか」「子ども達に任せるべきことは何なのか」を、もう一度考え直す必要があるのではないかと思います。

